

高等部「産業現場等における実習（前期）」

6月5日（月）から16日（金）までの10日間、高等部1年生は校内実習に、2・3年生は個別実習に取り組みました。今回は実習の様子をお知らせします。



1年生

1年生は、職業訓練室を黒養ワークトレーニング社（模擬会社）として、生徒は新入社員、教師が上司となって、1日4時間（80分×3回）の立ち仕事をを行いました。10日間の実習を通して、働くことの大変さを実感すると共に、責任を持って最後までやり遂げる達成感も味わうことができた貴重な機会となりました。

作業は東和電機工業様から受託したボルトナットの仮組が約30,000本、ボルトの袋詰めが約2,800袋です。1日に3000本、さらに袋詰めも300袋、全員全力で作業しなければ間に合わない量でした。

「模擬会社」であるため、社員として挨拶や報告はしっかりと行うのは当然のことです。ミスは許されませんし、正確さや迅速さも求められました。長時間作業に備えて、日々の健康管理もしっかり行う必要がありました。自分の作業スピードや作業量が明確に分かりますので、自分の集中度合いや日々の成果が一目瞭然です。

（20本組み立てたらシール1枚、20袋の袋詰めが終わったらシール1枚）



連日の4時間立ち作業をものともせず黙々と作業し、作業速度や正確さを向上させた生徒がいた一方、遅刻してしまったり、作業中に具合が悪くなったり1日休んでしまったり…。夜更かしが影響したのか、午後に集中力が切れ作業スピードが落ちてしまった生徒もいました。こういうことは毎年あります。なぜそうなったのか、原因を見つめ、自分自身の意志の弱さや生活習慣の乱れ、体力不足といった課題に気がつけるのかどうか…。

将来の夢実現のためには、自分の良さを伸ばすのはもちろんのこと、自分の課題から目をそらさず、日々の努力を積み重ねていけるのかどうか…。初めての実習経験（失敗も）を糧に、その後、努力を続けられた先輩達は希望の進路を実現しています。ここからがとても大切になってくる、初めての校内実習でした。

裏に続く

2年生で経験を積む → 3年生は進路を決める

2年生

2年生からは、一人で実習に取り組むことになります。先生の付添も放課後等デイサービスの利用もなくなる、卒業後やその先の生活を考えながら実習に取り組むことになります。

実習先を決めるということは、卒業後の生活を考えるということです。作業への適性はもちろんのこと、自力で通勤するのか送迎が必要なのか、送迎は自宅までなのか集合場所まで行くのか、給食はあるのか弁当持参なのか等々、様々な要素を複合的に考えなければなりません。将来を想定し少しずつステップアップする考え方も大切です。

3年生

3年生は、進路に直結する実習となります。すでに卒業後の進路をある程度決めている生徒は、同じ施設で実習することになります。昨年とは違う事業所で実習する生徒にとっては(保護者にとっても)、この事業所に進むのか、さらに違うところでも実習してみるのか、そういったことも考えながらの実習となりました。



2年生も3年生も、実習当初は緊張が見られましたが、昨年までの経験を生かし、目標達成に向けて努力する姿を見せてくれました。実習先の職員から「よく頑張っている」とか「作業のスピードが速くなっている」といった、がんばりを評価する声も聞かれました。

今回の個別実習にご協力いただいた事業所

実習先(福祉サービスの種類)	所在地	生徒数	主な実習内容
せせらぎの園(就労継続支援B型)	田舎館村	2	電子部品、粉の袋詰め、木工 他
カリフラワー(就労継続支援B型)	平川市	2	電子部品の組立
ワークキャンパス大鰐(生活介護)	大鰐町	1	農作業、室内軽作業 他
NEXT(就労移行支援)	弘前市	1	個別課題、農作業、SST 他
cocotane(就労継続支援B型)	弘前市	1	水耕栽培、室内軽作業、調理 他
あいゆう工房(就労継続支援B型)	板柳町	1	リサイクル作業 他

実習先で作業に取り組む生徒達



せせらぎの園



カリフラワー



ワークキャンパス大鰐



NEXT



cocotane



あいゆう工房